



入選作發表  
800字小說文庫

## ★審査結果発表

---

てきすとぼい

「来たれ てきすとぼい作家！ 800字小説バトル」 主催：ayamarido

<http://text-poi.net/vote/81/>

結果発表

---

【グランプリ 読者投票 1位】

偶然と運命の紙一重

晴海まどか

<http://p.booklog.jp/book/91864/page/2455819>

あざやかな場面転換で、読後感も良い、素敵な800字。

読者投票でも、最初から好評価がつづいていた気がしますー。

【グランプリ 読者投票 1位】

オノデラさんのはなし

kenrow

<http://p.booklog.jp/book/91864/page/2455822>

こちらもみごとに読者投票 1位。

荒廃した風景が印象的。

主催者的には、タイトルといい、いろいろミステリアスな800字だと思っておりましー。

【入選 読者投票 3位】

曇天

伊守梟

<http://p.booklog.jp/book/91864/page/2455824>

丹念な描写が、非常にはっきりとした情景を想像させる800字だと思いましたー。

読者投票でも安定した評価があったように思いますー。

【入選 読者投票 3位】

白白

碧

<http://p.booklog.jp/book/91864/page/2455825>

主催者的には、全体的に、まどろみの、淡いもやのような雰囲気を持つ800字だと感じており

ました。

同得点で読者投票第3位ですー。

【入選 主催者選】

サクリフェイス・ミー

muomuo

<http://p.booklog.jp/book/91864/page/2455826>

物語の断片のような800字小説が多かった中で、主催者がもっとも惹かれた一作でした。

魔王と勇者の駅前広場の戦いが気になりますー。

## 全体レビュー

---

みなさんこんにちは。

気がつけばすっかり秋、というかもう冬の話が聞かれるので、月日の経つのは早いもんだなあ、と平凡なことを思うております。

年を食ったせいでしょうかね。

さて、「来たれ てきすとぽい作家！ 800字小説バトル」には、主催者がなまけていたにもかかわらず、14編もの作品を投稿していただきました。ありがとうございます。ありがとうございます。

この「800字小説バトル」は、もともと「超文系サイト・テキスポ」というところで、サイト運営者が開催していたものを、あやまり堂がぱくって、10回まで開催してきたものです。

(テキスポは3年前、2011年12月に滅亡しました)

今回の「てきすとぽい・800字小説バトル」開催にあたって、開催方法など、そのまま踏襲いたしました。

グランプリ作品については、点数が公開されていたので、わかっている方も多いかもしれませんが、あらためて審査の結果を、全体レビューを添えてお知らせします。

今回は残念ながら選にもれた人も、てきすとぽいの色々な企画にドシドシご参加くださいませー！

### 全体レビュー

主催者的には、「てきすとぽ」の頃の800字小説と較べてしまうのですが、当時の800字小説が、一つの物語を押し込んでくるものが多かったような記憶があるのに対し、今回は、物語の断片といえますか、点描的なものが多かったなあと感じました。

あと、場面転換。800字しかないのに、前半と後半でがらりと変える手法は、あんまり見た事がなかった気がします。

点数的には、当初は厳しめに推移していた気がしますが、最終的には半分以上の8作が3.00以上となり、まずまず、妥当な結果となった気がしております。

個人的には、短いながらも情景がはっきり思い浮かぶもの、物語性が感じられる作品に、高めの点数をつけさせていただきました。

### 選考基準など

グランプリ2作と入選2作については、読者投票の結果に従いました。

今回、4.00の1位が2作になっていたので、驚きました。

また、以前の「てきすぽ」では「特選」を設定していましたが、今回はグランプリが2作も出たこともあり、「特選」なしで、入選3作とさせていただきました。

### 設定テーマについて

3つのテーマ「少し昔」「駅前」「高校生」について、まず「いつ」「どこで」「誰が」という3テーマを設けるのは、「てきすぽ」時代の800字小説バトルと同じ方式でした。

ちなみに今回のテーマ設定に当って思い浮かべたのは、少し前に主催者あやまり堂が旅した、北九州の門司港駅です（駅舎工事中でしたが）。

### そんなこんなで

グランプリ作者のお二人には、年末ごろに副賞がわりの「大きなお友だちの文学：てきすぽどーじん8号」をお送りします。こちらからご連絡さしあげますので、「いらない」場合は、さくっと無視して下さい結構です。

作品の投稿、投票、そしてコメントをお寄せいただきまして、ありがとうございました。

主催者いいかげんですが、また開催するかもしれませんので、その時はよろしく願いますー。

ではでは、選りすぐりの5作品を鑑賞してまいりましょうー。

## 投稿作品一覧

---

来たれ てきすとほい作家！ 800字小説バトル

<http://text-poi.net/vote/81/>

(投稿順・敬称略)

噂 (茶屋)

<http://text-poi.net/post/chayakyu/87.html>

月蝕 (茶屋)

<http://text-poi.net/post/chayakyu/88.html>

マレー鉄道は、まれに短くされちゃいまふ (しゃん@にゃん革)

<http://text-poi.net/post/syan1717/50.html>

曇天 (伊守梟)

[http://text-poi.net/post/fukuro\\_imori/3.html](http://text-poi.net/post/fukuro_imori/3.html)

爆発は突然に (碓氷穰)

[http://text-poi.net/post/\\_latefragment/30.html](http://text-poi.net/post/_latefragment/30.html)

承前：夢のあと (碓氷穰)

[http://text-poi.net/post/\\_latefragment/31.html](http://text-poi.net/post/_latefragment/31.html)

サクリフェイス・ミー (muomuo)

[http://text-poi.net/post/muo\\_2/16.html](http://text-poi.net/post/muo_2/16.html)

Birth & Rebirth (muomuo)

[http://text-poi.net/post/muo\\_2/17.html](http://text-poi.net/post/muo_2/17.html)

偶然と運命の紙一重 (晴海まどか)

<http://text-poi.net/post/harumima/21.html>

白白 (碧)

<http://text-poi.net/post/mimimdr/40.html>

目的（山田佳江）

<http://text-poi.net/post/yo4e/8.html>

オノデラさんのはなし（kenrow）

<http://text-poi.net/post/kenrow3/4.html>

あれ（しゃん@にゃん革）

<http://text-poi.net/post/syan1717/52.html>

運命の恋（渡辺一斗）

<http://text-poi.net/post/kazutowatanabe3/1.html>

## 偶然と運命の紙一重

晴海まどか

バスロータリーに面した駅前広場には、たくさんの人が往来している。  
制服を着た学生。スーツ姿のサラリーマン。腰の曲がったおばあちゃん。老若男女。  
人、人、人。

東京近郊のなんてことないベッドタウン。けっして大きな街じゃないけど、それでもこんなにもたくさんの人であふれてる。世界にはたくさんの方がいる。

そんな中で、私はあいつと出会ったのだ。  
なんて考えてみると、出会ったその事実だけで、ものすごい奇跡みたいに思えた。  
だから私は、じっと待つ。私の奇跡がやってくるのを。

電車が流れて、人が流れて、時間も静かに流れていく。  
待ち合わせは午後四時のはずだった。気がつけば、時刻すでに午後六時半を回っている。  
さすがにこれは遅すぎやしないかね。

募っていた不安が一気に膨らむ。少なくとも、あいつは遅刻しても約束を破ったことはない。  
私の家は駅のこっち側だけど、あいつの家は駅の反対側。

家まで行ったら迷惑かな、なんて思いつつ、でも押さえきれない焦燥感で駅前広場に背を向けて駅の構内に入った直後。

「あ」と上げた声が重なった。それから、「何やってんだよ」という声も。

「お前が来ないから」「こっちだってあんたが来ないから……」

私と彼は顔を見合わせ、そして二人して吹き出した。

\*\*\*

「……何、なんでそれが結婚の決め手になるの？」

私の言葉を母は鼻で笑った。

「そりゃね。生まれたときからケータイだのスマホだのがあったあなたにはわからないでしょうね」

いい？ と母は、眉を寄せたままの私の鼻先を指さす。

「二時間半。ママとパパは、駅の反対側で相手が待ってるのに気づかないで待ち続けてたわけよ



？ しかも心配になって、同時に駅の反対側に行こうとしてはち合わせたの。わかる？」

「ま、すごい偶然だね」

リビングのソファでトドのようにぐでんと横になり、いびきをかいている父をチラと見て、母はこれ見よがしにため息をついた。

「その『偶然』が『運命』に思えた高校時代があったのよ」

若いって怖い、と呟いた母に、私は深々と頷いた。

---

来たれてきすとぼい作家 800字小説バトル！ グランプリ作品

初出：

偶然と運命の紙一重

晴海まどか

<http://text-poi.net/post/harumima/21.html>

## オノデラさんのはなし

kenrow

煤けたトロッコで廃線跡を進んでいくと、緑の街が見えてくる。

かつて炭鉱で栄え、今は誰も住まない街。ひび割れたアスファルトの隙間を、公営住宅の壁面を、草木が覆い尽くしている。捨てられた大地で、どこから種子が来たのかもわからない。けれどその場所は確かに、生命の残る街だった。

「研修時間は午後の三時まで。あまり遠くまで行かないようにしてね」

教師がそう告げると、生徒は皆スケッチブックを片手に駆け出していく。教科書や文献でしか見たことのない世界が、広がっているに違いなかった。けれど私の興味からは外れていた。旧駅前広場に一人残り、ポロポロのベンチに腰掛ける。背もたれに身を委ねて、時間いっぱいやり過ごそうと決意する。

「何をしているの、カサイさん」

声をかけられて振り向くと、防護マスクをつけた女子生徒が立っていた。女子だと分かったのは制服のおかげであり、顔は判別できない。そもそも顔を覚えているクラスメイトの方が少数だった。

「別に何も。あなたこそどうして残っているの？」当たり前障りのない声色で返してやる。

質問に彼女は答えなかった。答えずに「マスク」と、私の手元を指差してきた。

「それ、付けなくていいの？」

「ああ。これね」マスクを翻しながら鼻で笑った。

「いいよこんなの。この辺はあまり危険じゃないっぼいし」

彼女は何かを言おうとしたが、やがて踵を返して立ち去る素振りを見せた。しつこいようなら強行策を取るつもりだったが、手間が省けたなと密かに安堵する。

けれど彼女は、その場から動こうとしなかった。

やがてもう一度向き直ったかと思うと、マスクを外して私の隣に座り込んできた。

「ねえ、私も一緒に描いてもいい？」

「描くって、何を」

「もちろんこの街を。ここからなら全体を見渡せるもんね」

独り占めなんてずるいよと付言して、彼女は画材を手を取った。

その日、絵を描かずにサボるつもりだったことは、親しくなるまで言えずじまいであった。

---

来たれてきすとぼい作家 800字小説バトル！ グランプリ作品

初出：

オノデラさんのはなし

kenrow

<http://text-poi.net/post/kenrow3/4.html>

曇天  
伊守梟

御殿場駅の駅前広場で地元の女子高校生ふたりがベンチに座って話をしている。僕は沼津からの帰りで、夕刻に発車するロマンスカーを待っている。切符を買うついでにその駅前広場にある公衆トイレで小便をしてきたところだ。

富士山は雲の向こうに隠れてしまっている。僕は晴れた日に撮った富士山の写真が掲示してある案内図を見つける。駅前にいくつかビルが建っているとはいえ晴天ならばかなり近くに見えるようで、僕は残念な気持ちになる。

僕は曇天を恨めしく見上げつつ、彼女たちが座っている場所の隣にあるベンチに座った。

盗み聞きするつもりなどなかった。たまたま聞こえてきただけだ。

「本当の話なの？」

ショートヘアの子が絞り出すように言う。ポニーテールの子は力なく頷く。

「どうしよう」

すすり泣くような声が聞こえる。「こんなこと誰にも言えないよ」

僕は腕時計を見る。

「でも、ひとりじゃ何もできないでしょ？」

ポニーテールがコクンと揺れる。少し昔に流行ったアニメ的センスのセーラー服が震えているように見える。

それからしばらくふたりは声をなくした小鳥のように黙りこくっていた。

時間はゆっくりと次の時間を連れてくる。時計の秒針がウサギみたいに長針と短針を追い越していく。空は少しずつその色を消していく。

「彼に、話したほうがいいと思う」

ショートヘアの子は意を決したようにそう言い、唇を噛み締めた。「言えないなら、私が言う」

ポニーテールの子が何か言ったような気がしたけれど、僕にはよく聞き取れなかった。僕は腰を上げ、胸ポケットから潰れたセブンスターの箱を取り出して数メートル先にある喫煙所に向かう。

彼女たちの声はもう聞こえなかった。

僕はさっき買い求めた切符で改札を通り、ロマンスカーの上等な椅子に座る。

ふと、今となってはだいぶ昔に起こった出来事を思い出す。僕の妹が起こした重大で深刻な出来事を。

僕は彼女を思い出す。

そして僕は、誰にともなく祈りを捧げる。

---

来たれてきすとぼい作家 800字小説バトル！ 入選作品

初出：

曇天

伊守梟

[http://text-poi.net/post/fukuro\\_imori/3.html](http://text-poi.net/post/fukuro_imori/3.html)

白白  
碧

まどろみの中から目覚めると、駅舎は砂浜にあった。

あたりがかすかに青白く染まっている。薄暗い空間が、波の押せては返す音で満たされていた。

暗がりの中、幼い子どもがこちらを見ていた。

—お母さまを迎えに来たの

そう言って走り出した小さな背中を、私は追った。

セーラー服に身を包んだ少女を見つけた。風が吹いて、肩まである美しい黒髪がさらりと靡いた。私は黙ってその背中に近づく。足元に飛沫がかかる。その冷たさに、今が冬であることを知った。

—娘さんが探していたわ

話しかけると、少女は初めて私に気付いた様子で、しかし驚きより先に嫌悪をあらわに、眉を顰めてこちらを見やった。

—子どもなどいないわ

—でも、あなたを迎えに来たと言っていたわ。四歳ほどの女の子よ

ますます少女の眉が寄った。

—子どもなどいないわ。四年前に、産まずに殺したもの

私たちの足元に、またひどく冷たい水が押し寄せた。今までより大きい波は、私たちの足首まで浸し、勢いよく引いていった。

—この海で？

問うと、険しかった少女の顔が、くしゃりと歪んだ。

—産んではいけないと言われたのよ。産まなければ、私たちは関係が続けられるし、いつか一緒になろうって、言ってくれたのよ。だから、私は、なのに、どうして、先生、先生……

ほろり、と涙が零れて、頬から顎から滴り落ちた。それが再び押し寄せた波に飲み込まれた。その途端、少女の姿は霧となり消えた。

水平線の向こうがわずかに赤みを帯び始めた。しばらくすると、穏やかな波を割って、轟音と共に飛沫が上がり、塩水に濡れた汽車が浜に乗り上げた。汽笛が響いた。

—お母さまは？

現れた女兒が不安げに首を傾げる。

—お母さまはまだこちらへは来られないの。さあ汽車にお乗りなさい

—冷たいのは嫌。二度と嫌

—大丈夫よ、もう寒くないわ。次の駅にはお父さまがいらっしゃるわ。そうしたら、いつかお母さまがやってくるまで、二人で待っていなさいね

---

来たれてきすとぼい作家 800字小説バトル！ 入選作品

初出：

白白

碧

<http://text-poi.net/post/mimimdr/40.html>

サクリフェイス・ミー

muomuo

「佐和子、なにしてるの起きなさい！」

ふいに布団をはぎ取られ、朝の冷気が襲ってきた。

「髪、凄いわよ？ そんなんじゃどうせ、お風呂に入ってから行くんでしょ？」

.....生きている。おばさんの声が頭に響いてつらいのは、たぶん低血圧のためだ。それ以外は何の支障もない。

「ひどい顔ねえ.....。早く洗ってきなさいよ」

母親の顔をしているおばさんは、なんだか別人だ。でも間違いなくそれ以上に.....いま僕は、本当に別人の顔になっている。佐和ちゃんの顔。少なくとも学年で一番の美少女の、泣き腫らした寝ぼけ顔だ。普通、男子には絶対に見せない顔だろう。正直、それが見てみたくて何とか起きられた。低血圧の体が想像以上に重い。そして洗面所に着いて.....気づく。お風呂って、顔どこの話じゃないじゃないか！



勇者の末裔である僕が命を賭して魔王を滅ぼし、駅前広場の戦いは終わった。高名な霊媒師の家系である佐和ちゃんが僕のご先祖を召喚して、禁断の魔法を特訓したんだ。偉大な勇者の助言を得たとはいえ、たった二人の高校生が世界を救ったなんて誰も信じないだろう。.....でも僕に信じられなかったのは、召喚した魂に体を譲り渡すという奥義を佐和ちゃんが使ったことだった。

「.....あったかい」

佐和ちゃんの体で浸かる僕.....佐和ちゃんは何もかも見通していたはずだ。すべてを僕に知られ、見られてしまうということ。家族を、未来を、すべてを投げ譲り渡す意味.....。そう思うと変な気持ちもすぐにどこかへ消えていた。もう男ではなくなっただけかもしれない。

『もしこの一年のうちにまた何か起きたら、この手紙を読んでね』

最初はなぜ僕に託すのか分からなかった。託すなら僕のほうじゃないかって。

「大丈夫、雄一くんは死んだりしないから.....か」

佐和ちゃんの声。気休めだったら誰でも言えるけど、佐和ちゃんは違った。

「.....さよなら、佐和ちゃん」



そのとき漸く涙が溢れてきて、すぐに湯船に消えた。

<了>

---

来たれてきすとぼい作家 800字小説バトル！ 入選作品（主催者選）

初出：

サクリファイス・ミー

muomuo

[http://text-poi.net/post/muo\\_2/16.html](http://text-poi.net/post/muo_2/16.html)